

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2026年3月10日
作成 高齢者支援センター	町田第1
作成者	川合

1.開催日時	2026年2月20日	(金)	19:00	～	21:00
2.会場	健康福祉会館 4階講習室				
3.主催センター	町田1				
4.参加人数	57名				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 10人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 21人 (うち、医師 2人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 22人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input type="checkbox"/> 行政 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (柔道整復師 1人、まちだ福祉Oごとサポートセンター 1人、大学教授 1人)				
6.開催テーマ	現場で始めよう人生会議(ACP)				
7.地域課題	<p>(1)課題設定の背景</p> <p>独居高齢者、認知症高齢者が増加し、本人の意思が確認できず、支援方針に悩むケースが増えていることから、もっと早い段階から人生会議について働きかける必要性を感じている。前年度は、人生会議を自分事として考え、ポジティブに捉えることから始め、まずは関係機関が人生会議を身近なものとして考えることができた。しかし、人生会議を行なうには少なからず時間と労力がさかれ、数をこなすことは難しい。人生会議に関するツールも多様化し、普及の傾向にはあるが、気軽に取り組めるような普及方法、本人、家族、関係機関での共有方法について話し合うことが必要と考える。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>①独居高齢者、認知症高齢者が増え、将来望む生活について、家族や身近な人、関係機関と共有ができていないケースが多い。</p> <p>②人生会議にまつわるツールが多様化しているが、それらを使いこなすことができていない。</p>				
8.医療と介護の連携に関する課題	<p>①独居高齢者、認知症高齢者が増え、将来望む生活について、医療と介護の関係機関での共有が必要だが、できていないケースが多い。</p> <p>②人生会議にまつわるツールが多様化しているが、それらを使いこなすことができていない。</p>				
9.会議の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議(ACP)をテーマとして掲げた背景について主旨説明を行う。 ・ACPIに関する地域の現状について、訪問診療の現場から発表していただく。 ・町プロで進めている人生会議のリーフレットとその活用方法について、町プロACP部会より、ご紹介いただく。 ・地域での取組みについて、支援センターと薬局より、発表していただく。 ・「人生会議(ACP)の普及啓発について」と、「本人、家族、関係機関間での共有方法について」、グループ内で意見交換をしていただく。 ・グループ内で出た意見を各グループから発表。 				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発方法については、幅広い世代、病状の人が利用する薬局へのリーフレットの配架、子どもの頃から考えていけるよう、高齢者に限らず広めていくという案や、年に一度、「話し合う日」を作るといった案が出た。 ・家族間や関係機関間での共有方法については、様々な案が出たが、特に、お薬手帳の活用や、サービス担当者会議での共有が有効ではないかという案が多かった。数年前に町プロで作成したお薬手帳カバーは、支援センターの在庫はほとんどないため、再生産があるか確認し、お薬手帳カバーとセットでの普及啓発と関係機関での共有ツールとして活用していきたい。 ・また、ACPIについては繰り返し取り組んでいく必要があるとの意見もあったため、次年度も引き続き、実施事例の共有など、ACPIについて考える機会を作っていく。 				
11.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日

3月9日